

ダンパーフレークの導入(4)

ーファイル音源再生ー

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、その感想文を送るとダンパーフレークなる返礼品が送られてきました。前報(3)に引き続き、このものの応用を検討していきます。

2. ダンパーフレークの試聴方法

今回は、ファイル音源再生系とし、ストレージからのUSB入力端子やUSBアキュライザーに適用してみたいと思います。

ストレージ→PC→USBアキュライザー→Sonica DAC

ストレージとしては、USBメモリー、サムスン製外付けSSD、バッファロー製外付けHDDを使用します。USBメモリーには本体に、SSDとHDDは引き出しUSBケーブルのUSB端子にダンパーフレークを貼ります。なお、PCからのUSB出力端子にはUSBダンパーを使用していますので、上記のとおり入力側とします。



再生ソフトはTEAC Hi-Res Editorを使用し、それぞれのストレージに収納されている音源から選択していきます。Hi-Res Editorは先読みしますので、ダンパーフ

レークの脱着の際は、その都度 **Hi-Res Editor** への音源の読み込みを行います。
さらに PC からの USB 出力端子には、**USB ダンパー**を適用していますので、**USB**
アキュライザーの入力側にも**ダンパーフレーク**を貼ってみます。この箇所への適用
は PC から **Sonica DAC**に **USB** 経由の再生すべてに影響するメリットがありま
す。



最後にストレージに貼っていた **USB ダンパー**を剥がして、**Brooklyn DAC+**の入力
側にある **USB アキュライザー**の入力側に**ダンパーフレーク**を貼ってみます。

fidata HFAS1-S10→**USB アキュライザー**→**Brooklyn DAC+**

再生は、**fidata HFAS1-S10** に収納したハイレゾ音源を再生します。

この箇所への適用は **fidata HFAS1-S10** から直接 **Brooklyn DAC+**に **USB** を経由す
る再生すべてに影響するメリットがあります。



なお、今回から前報(3)で報告したとおり、**TruPhase** と **300B** アンプの間に介在す
る**バランスアナログアキュライザー**の出力側に**ダンパーフレーク**を貼っています。

3. ダンパーフレークの試聴結果

USB メモリー本体に貼った場合は、藤田恵美ヘッドホンコンサートライブ配信録音
5.6MHzDSF の再生で、**ダンパーフレーク**なしでもコンサートライブ配信の雰囲気
は十分に出ており、**ダンパーフレーク**を貼ってから再読み込みしても、大きな変化
はなく、声や楽器の質感が若干変わったかなという程度です。

SSD の付属の **USB** ケーブルの **PC** への入力端子に貼った場合は、**2.8MHzDIFF** ケ

ルンコンサート音源再生で、ダンパーフレックなしでもケルンコンサート音源の雰囲気は十分にでており、ダンパーフレックを貼ってから再読み込みして再生しますと、大きな変化はなく、ピアノの響きが若干豊かになったかなという程度です。

HDDでは、付属のUSBケーブルのPCへの入力端子に貼った場合は、BS放送のハイドンのチェロ協奏曲のチェロアンサンブル編曲版の192KHz24bitPCM録音の再生でダンパーフレックなしでも4台のチェロアンサンブルのライブ録音の雰囲気は出ており、ダンパーフレックを貼ってから再読み込みして再生しても大きな変化はなく、チェロの響きが若干豊かになったかなという程度です。

以上、ストレージのUSB端子へのダンパーフレックの適用は顕著な効果があったとは言えません。このことはストレージからの読み込みと再生が同時進行でないことに関係しているのかもしれませんが。

そこでPCからのUSB出力側のUSBアキュライザーの入力側にダンパーフレックを貼ってみますと、藤田恵美ヘッドホンコンサートライブ配信録音は、ライブの雰囲気がリアルになり、声と楽器の質感がしっかりしてきます。

2.8MHzDIFFケルンコンサートは、ピアノの高域は煌びやかに、左手の低域は力強く豊かに響きます。

ハイドンのチェロ協奏曲は、チェロの響きの豊かさに加え、PCM音源のざらつき感が消えて、弦の滑らかさがでてきます。

つまり、PCからDACへの出力側での効果が大きいといえます。

fidata HFAS1-S10の収納音源はSS誌とe-onkyoの11.2MHzDSD音源とユニバーサルミュージックのMQA音源を選択してみます。11.2MHzDSD音源はシュタルケルのバッハのチェロ組曲とKoike stringsのモーツアルトの弦楽5重奏曲、MQA音源はクーベリック指揮ベルリンフィルのドボルザークの交響曲8番です。

fidata HFAS1-S10のUSB出力側のUSBアキュライザーの入力側もダンパーフレックを貼ってみますと、バッハのチェロ組曲では、チェロのDSDらしい滑らかさが一層向上します。

モーツアルトの弦楽5重奏曲ではDSDらしい滑らかさが一層向上します。

ドボルザークの交響曲8番では、ピアノの表現がしっかりし、全体にオーケストラの音の分離が向上します。

4. まとめ

ストレージからPCへの入力側のUSB端子では顕著な効果が認められませんが、DACへの出力側のPCとSonica DACの間に介在するUSBアキュライザーとfidata HFAS1-S10とBrooklyn DAC+の間に介在するUSBアキュライザーのダンパーフレックでは効果を認めましたのでこれらを残すこととします。

以上